

. 学校の概要

斐川町立西野小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	28
児童数	92	95	110	94	112	109	3	615	

. 実践研究の概要

1. 主題

豊かな心を持ち、よりよく生きようとする子どもを育てる

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～6年生 算数(基礎的・基本的な内容の定着を図る上で少人数授業による効果が期待できると考えられるため)

(2) 年次計画

平成
14
年度

テーマ 豊かな心を持ち、よりよく生きようとする子どもを育てる

仮説 一人一人の実態に応じた学習内容や指導方法・指導体制及び評価を生かした指導を工夫するなど、個に応じたきめ細かな指導を行うことで、確かな学力を身に付けた子どもが育つであろう

研究内容・方法

- ・算数科における発展的及び補充的な学習のための学習教材の開発
- ・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
習熟度別指導を取り入れた少人数授業の実践(算数科)
子どもの求めを大切にした体験的・問題解決的な学習の推進(算数科及び生活科・総合的な学習の時間)
- ・自己評価カードによる児童の実態把握と自己評価能力の育成
- ・学力検査及び意識調査の実施
- ・朝読書, 朝学習の実施

平成
15
年度

テーマ 豊かな心を持ち、よりよく生きようとする子どもを育てる

仮説 一人一人の実態に応じた学習内容や指導方法・指導体制及び評価を生かした指導を工夫するなど、個に応じたきめ細かな指導を行っていけば、確かな学力を身に付けた子どもが育つであろう

研究内容・方法

- ・発展的及び補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発
- ・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
学習内容に応じた効果的な少人数授業(習熟度別指導等の充実)と適切なコース選択のあり方

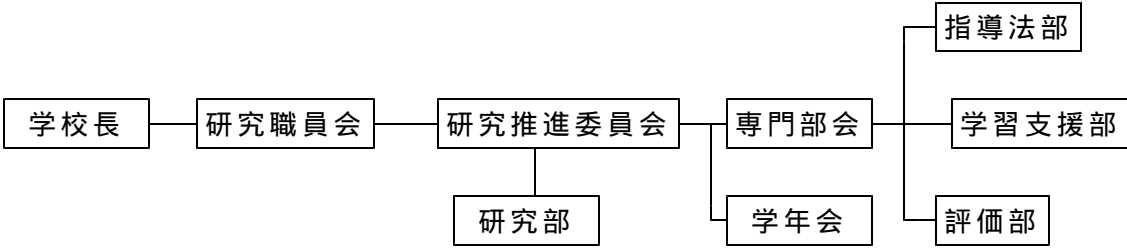
体験的・問題解決的な学習の推進
 児童の興味・関心や必要感に根ざした学習課題や単元構成の工夫
 評価規準や指導形態を明らかにした年間計画に基づく指導

- ・学力の評価を生かした指導の改善
 児童の自己評価力を高め主体的な学びに迫るための自己評価の実施
 指導内容の着実な定着をはかるための診断的評価及び形成的評価の実施
- ・学びの機会の充実（朝読書，朝学習，算数コーナー等）及び学習空間の整備

平成
16
年度

テーマ 豊かな心をもち，よりよく生きようとする子どもを育てる
 仮説 2年次のものを修正
 研究内容・方法
 1・2年次の研究成果や課題をふまえた教育課程及び研究計画の見直し，「確かな学力」の向上を中心とした学校全体計画の作成，地域への情報公開，ホームページの充実，「学力」に関する状況分析，評価及び3年間の成果と課題のまとめ
 研究のまとめ～効果的な方法の集積と汎用性

(3) 研究推進体制



・平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

算数の学習についての意識の変化

昨年度から算数の学習について児童の意識調査を行っているが，今年度12月の調査では下記のような結果が出ている。(グラフの各項目の上段が昨年度 下段が今年度)

項目によっては昨年度よりも「できる」と答えたものが下がっているものもあるが，全体的には上がっているものが多い。特に，「学習の準備がきちんとできるか」「問題を読んで内容がわかるか」「集団での思考は楽しいと感じるか」という項目で，昨年度よりも「できる」「まあまあ」と答えている児童が多くなっている。学習準備の項目については，算数の学習に興味を持てるようになって学習用具の準備もきちんと

できるようになったと考えられる。

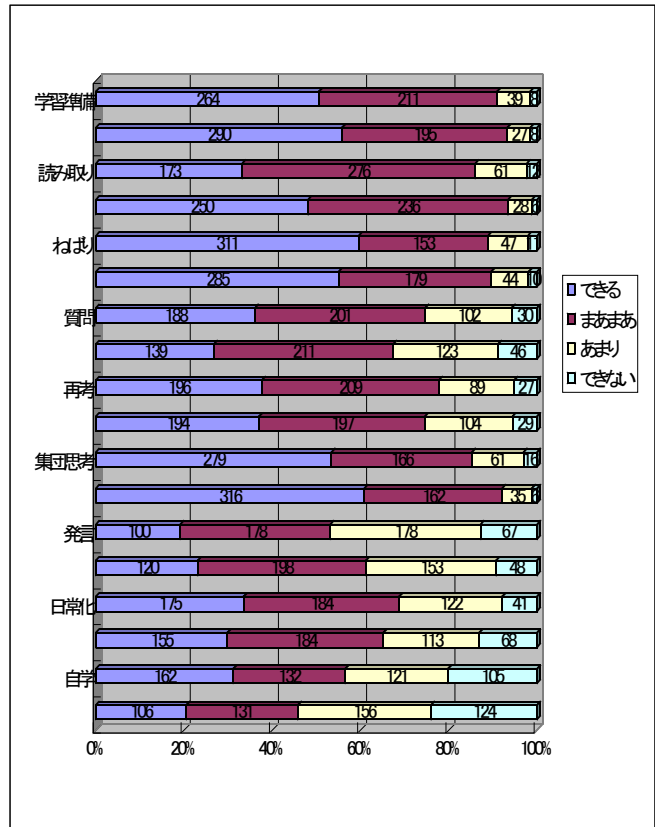
内容の読み取りについては，少人数指導を取り入れ，児童の実態に応じて指導の方法や内容を変えたり，興味や関心を持てるような教具等を工夫したりした結果，問題の内容について何を問われているのかつかめるようになってきたのではないかと思われる。また，指導のステップを細かくし問題の意味をつかめるようにした指導も効果を上げているということがあげられるであろう。

今年度算数科においては思考の過程を重視し，個人思考から集団での思考の練り上げを目指してきたが，みんなと一緒に考えることで自分の考えを確かめたり，友だちの考えのよいところを見つけたりすることができるようになってきた。友だちと

いろいろな考えを出し合うことがおもしろいと答えている児童も多く，集団思考のよさを感じ取っている児童が多いことをうかがわせる結果になっている。

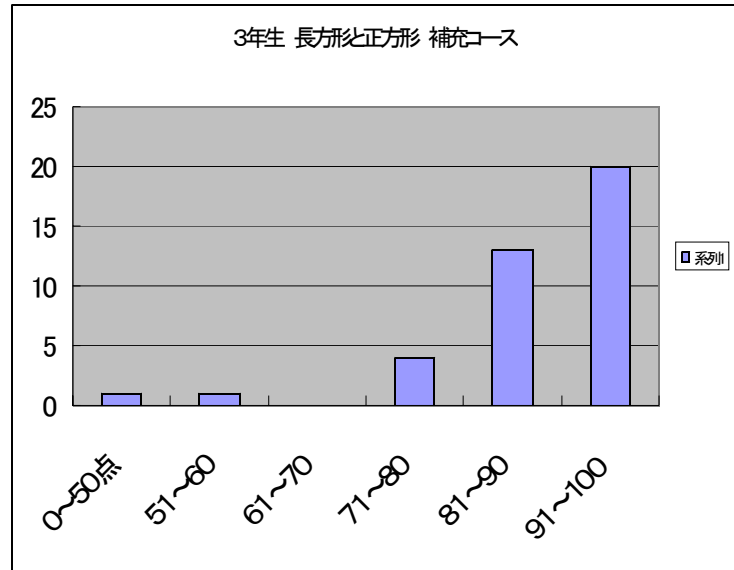
発言の項目でも昨年度よりも「できる」と答える児童が増えている。少人数だと自分の考えを言いやすい，当てられる回数が増えてたくさん発表できるという気持ちがこのような数字に表れているのだと考えられる。

しかし，その他の項目では昨年度とあまり変わらないか，逆に「できる」と答えている児童が減っている。これらの項目については原因の分析をするとともに，どのようにすれば児童の意識が改善されるのか指導のあり方などを再考しなければならない。



補充的な学習と発展的な学習について

補充的な学習と発展的な学習は対になっているという考えのもとで、2つのコースの教材を作成し、また、どのような規準で2つのコースに分けて指導するかを検討した。発展的な学習については数学的な思考がのびることを目指し、補充的な学習では評価規準に到達することを目標とした。コース選択は振り返りテストを元に行った。3年生の「長方形と正方形」の学習では習熟度別の少人数学習を行



った後、単元の終わりで振り返りテストによってもう一度発展と補充2つのコースに分かれ、それぞれ図形を操作しながら思考力の伸びや学習内容の定着をはかった。発展的な学習の思考力の見取りはまだ十分な検証方法が検討されていないので効果は明らかではないが、補充的な学習のコースでは総括のテストで平均点が90点で期待得点の84点を上回り、一定の効果を上げることができたと考えられる。

2. 今後の課題

確かな学力のとらえについて

2年間にわたり確かな学力の向上を目指して実践してきたが、基礎的・基本的な内容についてはある程度の向上がみられたと思う。しかし、確かな学力のもう1つの柱である「自ら学び自ら考える力の育成」については、まだそのとらえや検証方法が十分に検討されているとはいえない。今後、この点について共通理解を図るとともに、指導方法や指導体制を考えていく必要がある。

補充的な学習と発展的な学習について

今年度、補充的な学習と発展的な学習について考え、教材開発をしてきた。大単元や小単元の終末で発展的な学習を扱ったが、1時間の授業の終末でも発展的な学習が扱えるかどうか検討する必要があると思う。コース分けの問題や評価の仕方など、工夫改善をしていかなければならないと考えている。

学力把握のための学校の取組について

授業研究及び日々の観察等による検証、定期的な学力検査の実施（年1回）

V. フロンティアスクールとしての成果の普及について

中間発表会を下記のように開催した。
期日：平成15年11月20日
会場：西野小学校
対象：出雲教育事務所管内の学校
目的：授業公開をして研究の成果の普及・推進を図るとともに，改善点などを検討するため
16年度は県内の学校を中心として公開し，成果の普及・推進を図る予定
また，HP を作成し，実践内容を公開する。



次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 > 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 > 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 > 少人数指導 > T・Tによる指導
 > 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 > 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 > 有 無